

デンタル・プレゼンテーション

Dental presentation



内山 茂 (うちやま しげる)

1977年 東京医科歯科大学卒業
 1984年から2013年 所沢市ウチヤマ歯科医院院長
 1998年から 東京医科歯科大学臨床教授
 2013年から 東京医科歯科大学臨床研修医指導医
 1978年から約20年間母校同窓会で卒業教育の一環として学術講演会の企画運営に当たる。その後開始した自身の講演活動は延べ300回を超え、現在はその経験を生かして、プライベートセミナー、オーダーメイドセミナー等により後進の育成に尽力している。

「デンタル・プレゼンテーション」vol.1

はじめまして。内山茂です。これから1年ほど、デンタル・プレゼンテーションについて、過去のエピソードをまじえながら、「本当に優れたプレゼントとは」をテーマに、思いつくままに書き連ねてまいります。

第1部(総論)

第1部では、プレゼンで注意すべき一般的事項について、私の体験談を中心に解説します。実際の講演での心構えや教訓が網羅されていますが、その背景にどんなドラマがあったのか、「読み物」としても楽しめると思います。

<時間を守る>

1998年、出版した「PMTTC」という本が好評を得て、全国から講演の依頼が来始めた頃のこと。PMTTC担当者の歯科衛生士2人と講演したのですが、不慣れな上の大会場で、講演時間を大幅にオーバーしたのです。スタッフとの事前の打ち合わせに甘さがあったのですね。

私達が学んだことは、「**時間を守ること**」、「**そのために十分な準備をすること**」。特に他の講師とのジョイント講演では、基本中の基本です。

<高をくくらない>

その講演中、私は時間不足で焦る気持ちを悟られまいと、「講演なんてこんなものさ」と後の話を軽く流してしまったのです。余裕を見せたつもりでしたが、高い受講料と貴重な時間を費やして来てくれた受講者にこれほど失礼な事はありません。多少あわてても、自分の伝えたいことを熱く、精一杯語る姿に聴衆は感動するのです。

「高をくくらない」、「聴衆を甘く見ない」、次に学んだ教訓でした。

<無駄な話はしない>

私が出会った最悪の講演会の話です。その講師は本題に直接関係ない話と文献考察を4時間続けた後、ようやく臨床写真等を紹介し始め、これからという時に「そろそろ終わりの時間が近づきましたが、私の話はこの先が一番面白いのです。よろしければ延長したいのですが…」結局、講演は2時間オーバーで、受講生の評判も散々でした。

「自己紹介は簡潔に、できるだけ早く本題に入る」、「知識や情報の出し惜しみはしない」、「時間延長はサービスにならない」という教訓を学んだのです。

<しっかり聴いてくださいとお願いする>

講演の冒頭で、「私は皆様と同じ一介の開業医ですから大した話はできませんが…」と謙遜しがちですが、聴講者に敬意を表しているようで実は逆です。聴講者はこう思うかもしれません。「せつ

かくの休日に期待して来たのに、それはないだろう!」。こんな講師もいました。「昨日、久しぶりにこの地で同級の先生と会い、飲み過ぎて今日は完全な二日酔いです」。休日に早起きして参加した受講者は良い話を聞きたい一心なのです。

開始の言葉は次の一言で十分です。「一生懸命準備してきました。皆様にも少しでも多くお伝えするために精一杯お話ししますので、しっかりお聴きください」。



<最初から聴衆を引きつけるには>

それでも、講演開始の5分間は聴講者に自分をアピールするチャンス。まず、多くの視線にひるまず、話し始めはゆっくりと、はっきりと…。小さな声、聞き取りにくい声はいけません。講演前には発声練習。口の周りの筋肉や舌を動かして緊張をほぐしておくだけでも効果はあります。大きな会場ではマイクの音量も確認しておきましょう。第1声は「お早うございます。ただいまご紹介いただきました…」とはっきり言います。自己紹介は簡潔に。どうしても自分をアピールしたい場合は、スライド1枚にまとめて、強調したい点だけ読み上げるとスマートです。冗談を言って和ませるのは、よほどの弁舌家でない限りたいていは失敗します。「余計な前置きは逆効果の場合が多い」ということも覚えておいてください。

“ピエゾンマスター 700”

モード切り替えボタンによりパワーを切り替えることで、通常のスケーリングから、SPT時のデブライドメントまでさまざまに使いこなせる超音波スケーラーです。エンドモードではパワーを最大50%までに制御可能です。また、フットコントローラのブーストペダルを踏み込むことで、出力パワーを30%アップさせることができます。



ピエゾンマスター 700

最新機のピエゾンマスター700では、負荷に応じたパワー出力を自動制御する「スマートピエゾン機能」や、17段階の細かなパワー調整、異常振動が無い正弦波駆動が採用されています。これは、弱い圧力で使うとパワーが弱まり、強く使うとパワーが大きくなる機能です。これにより優しく効果的な歯周治療が行えます。

1つのハンドピースで2つのボトルを使えるので、生理食塩水や含嗽剤、ぬるま湯(35°Cまで)など、目的に応じて洗浄液を使い分けることができます。さらに、チップ先端から発せられる微小の酸素の泡を歯肉縁下に送り込むことで、嫌気性菌に対してのキャビテーション効果もあります。

超音波スケーラーは正しく用いることで手用スケーラーとほぼ同等な治療成績が得られることが文献的にも証明されています。